

平成28年10月31日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	千葉 茂	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人片柳学園	平成25年3月1日	片柳 鴻	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
目的	ロボットについてあらゆる角度から学び、工業技術、情報技術(IT)やサービスなどの実践的なノウハウを体得し、広範な産業界に貢献しうる人材の育成をする。またエンターテイメントや福祉・介護をはじめ医療やコミュニケーションといった人間と共に存するシーンで活躍するであろうロボットのエキスパートを養成することを目的とします。				
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業	工科技術専門課程	ロボット科	平成25年文部科学省告示第2号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習 実験 実技
2 年	昼間	1710	810	0	1110 0 0
					単位時間
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人	128 人	4 人	1 人	5 人	人
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定</p>		
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日	卒業・進級条件	<p>進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p> <p>卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p>		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任から個別に連絡を取り、状況を把握し、改善へ向けて指導する。必要なら、保護者へ連絡・相談する。	課外活動	<p>■課外活動の種類 ロボット競技会、企業連携プロジェクト、卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭</p> <p>■サークル活動: 有</p>		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ヤマハ発動機株式会社 東京地下鉄株式会社 ユニプレス株式会社 株式会社IHI ANAスカイビルサービス株式会社 NECネットワーク・センサ株式会社 株式会社菊池製作所 日野精機株式会社 ■就職率※1 : 97.4 % ■卒業者に占める就職者の割合※2 : 81.3 % ■その他 大学編入学 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)	主な資格・検定等	<p>ビジネス能力検定2級・3級 品質管理検定4級 産業用ロボット特別教育(教示) 産業用ロボット特別教育(検査) 電気取扱特別教育(低圧) 小型車両系建設機械特別教育 アーク溶接特別教育 ガス溶接技能講習 高所作業車特別教育 玉掛技能講習 小型フォークリフト運転特別教育 クレーン特別教育</p>		
中途退学の現状	■中途退学者 5 名 平成27年4月1日時点において在学者 123 名 平成28年3月31日時点において在学者 118 名 ■中途退学の主な理由 学費が支払えなくなった。アルバイトとの両立が出来ず不登校になった。学習障害・多動性障害等をもつていて集団学習になじめなかった。 ■中退防止のための取組 成績不良者に対しては、補習に実施や追課題提出によって救済する。不登校学生に対しては、個別に連絡を取り、状況を把握し、改善へ向けて指導する。必要なら、保護者へ連絡・相談し改善策を検討する。		<p>■中退率 4.1 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)</p>		
ホームページ	http://www.neec.ac.jp/				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要とする人材を育成する為に、企業へのヒアリングなどを通して実務的な知識や技術を調査し、科目の改善や内容の工夫を行う。教育課程編成委員会への報告も行い、常に授業内容や方法を検証する事により実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
一瀬 康剛	HFA(Hachioji Future Association)	H28.4.1～H29.3.31	①
岡部 貴俊	株式会社テージーケー 常務取締役管理本部	H28.4.1～H29.3.31	③
小澤 武	株式会社菊池製作所 人事部長	H28.4.1～H29.3.31	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	H28.4.1～H29.3.31	
清水 憲一	日本工学院八王子専門学校 科長	H28.4.1～H29.3.31	
寺澤 明広	日本工学院八王子専門学校 主任	H28.4.1～H29.3.31	
渕川 達也	日本工学院八王子専門学校 教育学生支援部 係	H28.4.1～H29.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催する。開催時期は夏季休業中の8月と年度末の3月を基本とする。

(開催日時)

第1回 平成28年3月10日 13:00～15:00

第2回 平成28年8月 4日 10:00～12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ハンダ付けは、信頼性を高めるうえで非常に重要なので、確実に身に付けさせてほしいという意見を反映して、「テクノロジー実習1・2」のなかで作業時間を多くとるよう調整した。目的意識を持って作業することが重要との指摘を受け、「ロボット製作実習」ほか実習科目で担当教員から意識付けを念入りに行なうよう指導の改善をしている。自分の意見を相手に伝えることや、相手が言っていることを確実に理解することができる力が重要との指摘を受け、「キャリアデザイン1」のなかで、社会人経験豊富な講師の特別講義を実施している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

キャタピラー教習所株式会社との連携は、学内では体験できない溶接技術や特殊車両運転技術などの習得、また安全衛生に関する知識の取得のため講習を実施し、その成果に関して評価を受けている。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
テクノロジー実習1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の入門技術を実習形式で体験的に学びます。	キャタピラー教習所株式会社
テクノロジー実習2	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	キャタピラー教習所株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成27年7月28日 よしもとロボット研究所より、Pepperの開発について具体的な開発手法について講義を受け、最先端ロボット開発の一端を知ることが出来た。

平成27年8月3日 キャタピラー教習所株式会社より、現状の技術安全教育について講演を受け、ヒューマンエラーや労働災害などについての知見を得た。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成28年3月30日 「夜回り先生」水谷修氏の講演を聞き、学生指導の知見を得た。

平成28年8月3日 年度末の卒業制作展に向けて、MARSProjectを取り上げ、グループワーキングを通じて指導方法を検討した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

平成28年11月 株式会社ゼネットより、Pepperのアプリケーションを開発している立場からの講義を受け、Pepperに関するソフト開発時の技術的な工夫などの講習を予定している。

平成29年3月 株式会社ココロより最新ロボットの技術動向などに関する研修を予定している。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成29年3月 学生のメンタルヘルスに関する研修を予定している。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受け入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令・設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

技術を教えることも重要だが、社会人としての生き方の重要性の指摘を受け、「キャリアデザイン1」のなかで、社会人経験豊富な講師の特別講義を実施している。教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、作品は卒業制作展に出展するなど、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会长 (セントラルエンジニアリング株式会社 グルーフマネージャー)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
古木 勝紀	株式会社バンバー 取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
長畠 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会 理事長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	医療企業等委員
榎原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヶ月)	医療・保育団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 ロボット科) 平成28年度												
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		授業時数	単位数	講義		演習	実験・実習・実技			
		○	ビジネススキル1	社会人として必要な、スキルについて学習します。就職に必要なマナーや一般常識などを学び、就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。	1・前	30	2	○		○		○
○			ビジネススキル2		1・後	30	2	○		○		○
○			キャリアデザイン1	就職活動への準備と卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身に付けています。	1・前	30	2	○		○		○
○			パソコン実習		1・前	30	2	○		○		○
○			スポーツ実習1	冬季期間中に集中授業としてスキー、スノーボード教室を実施します。	1・後	30	1		○	○	○	○
○			ロボット入門		1・前	30	2	○		○		○
○			エレクトロニクス1	ロボットを動かすために必要な、エレクトロニクス技術について学びます。直流回路や交流回路、静電気など基本技術を学びます。またトランジスタやICなどの半導体技術についても学びます。	1・前	30	2	○		○		○
○			エレクトロニクス2		1・後	30	2	○		○		○
○			デジタル回路	ロボット制御の基本となるデジタル技術、2進法や論理回路などについて学びます。	1・後	30	2	○		○		○
○			メカニクス1		1・前	30	2	○		○		○
○			メカニクス2	ロボットの設計や製作に必要な、機械や材料の基礎知識を学びます。	1・後	30	2	○		○		○
○			プログラミング1		1・前	30	2	○		○		○
		○	マイコン1	ロボットやさまざまな機器を自在にコントロールするために使われているマイクロコンピュータの基礎について学びます。	1・後	30	2	○		○		○
○			機械製図		1・前	60	2		○	○		○
○			3D-CAD実習1	ロボットや機械の設計に欠かすことのできない3D-CADソフトの使い方や応用方法について実習形式で学びます。	1・後	60	2		○	○		○

○		テクノロジー実習 1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1 ・ 前	90	3			○	○			○	○
○		テクノロジー実習 2		1 ・ 前	90	3			○	○			○	○
	○	ロボット製作実習 1	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要な基礎技術について実習し、実際にロボットを製作します。	1 ・ 後	90	3			○	○			○	
	○	ロボット制御実習 1	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎について実習します。	1 ・ 後	90	3			○	○			○	
○		ロボット応用実習 1	ロボットやものづくりに関する総合的な演習を行います。ロボット競技会へ向けた活動や展示会見学を単位認定します。	1 ・ 通	30	1			○	○			○	
	○	ロボット応用実習 2		1 ・ 通	30	1			○	○			○	
	○	プレゼンテーション 1	社会人として必要な知識や自己表現力を学びます。	2 ・ 前	30	2	○		○	○				
	○	プレゼンテーション 2		2 ・ 後	30	2	○		○	○				
	○	キャリアデザイン 2	就職活動への準備と卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身に付けています。	2 ・ 後	30	2	○		○				○	
	○	スポーツ実習 2	冬季期間中に集中授業としてスキー、スノーボード教室を実施します。	2 ・ 後	30	1			○	○			○	
○		二足歩行ロボット 1	二足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2 ・ 後	30	2	○		○				○	
○		二足歩行ロボット 2		2 ・ 後	30	2	○		○				○	
○		ロボット技術 1	ロボットやさまざまな機器に使われているセンサーの基礎と周辺技術について学びます。	2 ・ 前	30	2	○		○				○	
○		ロボット技術 2	ロボットやさまざまな機器に使われているアクチュエーター（モーターなど）の基礎と周辺技術について学びます。	2 ・ 前	30	2	○		○				○	
○		メカニクス 3	ロボットの設計や製作に必要なメカの基礎と応用について学びます。	2 ・ 前	30	2	○		○				○	
○		バイオロボティクス	生物の動きのしくみと、それを実現する方法を学びます。	2 ・ 後	30	2	○		○				○	
○		ロボット制御 1	ロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2 ・ 後	30	2	○		○				○	
○		ロボット制御 2		2 ・ 後	30	2	○		○				○	
○		プログラミング 2	プログラムを応用してロボットを動かす方法などについて学びます。	2 ・ 前	30	2	○		○				○	
○		マイコン 2	ロボットやさまざまな機器に使われているマイコンの応用について学びます。	2 ・ 後	30	2	○		○				○	
	○	人工知能	ロボットなどに使われる人工知能全般と、しくみについて学びます。	2 ・ 後	30	2	○		○	○			○	
	○	福祉ロボット	福祉の分野におけるロボットの現状や将来について学びます。	2 ・ 前	30	2	○		○	○			○	

○		ロボット製作実習2	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要な基礎と応用技術について実習し、実際にロボットを製作します。	2 ・ 前	90	3			○	○			○
○		ロボット製作実習3	高度な機能を持ったロボットの設計と作り方について実習し、実際にロボットを製作します。	2 ・ 後	90	3			○	○			○
○		ロボット制御実習2	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎と応用について実習します。	2 ・ 前	90	3			○	○			○
○		ロボット制御実習3	基礎を身に付けた上で、より実践的な技術、ロボットを動かすプログラムなどについて実習します。	2 ・ 後	90	3			○	○			○
	○	3D-CAD実習2	3D-CADを使ってロボットや機械を設計する手法について、さらに詳しく実習形式で学びます。	2 ・ 前	60	2			○	○			○
	○	ロボットコンテスト	自分たちで作製したロボットを用いて競技会を行います。	2 ・ 後	30	1			○	○			○
○		ロボット応用実習3	2年次の科目について総合的な演習を行います。ロボット競技会へ向けた活動や展示会見学を単位認定します。	2 ・ 通	30	1			○	○			○
○		ロボット応用実習4		2 ・ 通	30	1			○	○			○
合計			45 科目						1920	単位時間(91 単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1500時間(63単位)取得および選択科目を210時間(7単位)以上取得し、合計1710時間(75単位)以上取得すること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。